

南半球便り（その 33）：スポーツ大国

9 月 10 日

豪州に住んでみて、来る前から抱いていた印象と変わらなかったことが一つあります。それは、豪州が名うてのスポーツ大国ということ。今回はその点を論じてみたいと思います。



様々なスポーツ・イベントの舞台となるキャンベラのスタジアム

1. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックでの活躍

東京でのオージー・アスリートの活躍ぶりについては、ここで説明するまでもないでしょう。「南半球便り（その 25）」でも書いたとおりです。個人競技と団体競技の双方において赫々たる成果を残したことは世界が知るところです。

個々のオージー・アスリートの身体能力の高さもさることながら、私は、スポーツ大国を可能ならしめている独特のメンタル、整備された環境、周囲の応援・支援、といった点に注目しています。

2. メンタル

印象的なシーンがいくつもあった東京 2020 の中で、特に忘れられないものがいくつかありました。

陸上男子十種競技。1500m 走の際、メダルの可能性が残っている豪州の若手選手に対し、同じ競技に出場していた先輩選手が、自分の成績は度外視して並走、叱咤激励し、

この競技で豪州初のメダル獲得につながったシーン。

女子サーフィン。メダルが有望視されていた豪州選手が日本人選手に敗れてメダルの希望が潰えた途端、波の上で祝福の手を差し出したシーン。

女子スケートボード。劣勢を挽回し金メダルを取るべく大技にチャレンジして失敗した日本人選手の心意気を称え、豪州選手らが仲間と肩車して担ぎ上げたシーン。

これらは、「スポーツマンシップ」の一言で括られることが多いでしょう。同時に、その根底にある彼らのメンタルの強さとしなやかさ、ライバルへの敬意とさりげない配慮に強く感じ入りました。自らの得意の時には競争相手の心情に思いをいたし、失意の時には勝者を讃え我執を捨てる。そこにこそ、スポーツが育む人間の価値があるように思えます。

3. 環境

東京にあるナショナル・トレーニング・センターが、もともと豪州の強化施設を参考にして作られたことは、意外と知られていません。スポーツ先進国であることの最たる象徴でしょう。

日常生活のレベルでも、そこここにスポーツを楽しめる環境があります。キャンベラの遊歩道・サイクリング道は、その典型。町の中心にあるバーリー・グリフィン湖の周囲約30キロメートルにもわたって、遊歩・サイクリング用の舗装道が整備されています。



バーリー・グリフィン湖のサイクリング・マップ

(出典：キャンベラ市観光局サイト visitcanberra.com.au)



至る所にある修理設備

多摩川河岸でのサイクリングを楽しんでいた私から見ても、その遙かに恵まれたサイクリング環境は垂涎的だ。実は、キャンベラ駐在の各国大使の間では、「バイカーズ」

というサイクリング・クラブがあり、週末の朝に「つるんで」走っています。主に欧州、南米の大使が多い中、アジアからは日本、インドが常連です。



上り坂で息が上がリスピードが落ちる同僚大使連を横目に、涼しい顔でEバイクを滑らす私。技術立国日本の代表として無上の愉悦（笑）を見いだしています（リチウム電池の力に頼るとは、真のスポーツマンとは言えませんが・・・）。

4. 周囲の応援・支援

凄く嬉しかったことがあります。東京五輪の開催を祝して、何人もの豪州の方から、祝福・感謝の手紙、メール、さらには花束までもが大使館に届けられたのです。この有様を見ていて、心温まる対日配慮もさることながら、オーギーがスポーツに寄せる思いの強さと愛着の深さがひしひしと伝わってきました。



大使館に届いたお花



直筆（日本語含む）のお手紙

報道によれば、何人ものアスリートが西オーストラリア州の鉄鉱石王といわれる億万長者の財政支援を受けてきている由。

こうした点を見ても、声援を送り、支援を差しのべる厚い層が社会に根付いてこそ、スポーツ大国たり得るのだと実感した次第です。

5. いざ、外へ！

ほぼ毎日のように青く高い空が広がる豪州では、自ずと体を動かしたくなるものです。私もこれからひとっ走りしてこようと思います。無論、ゆめゆめ「暴走老人」などと言われたいよう、交通法規を遵守して「清く正しく」疾走します。また、「恐怖の鳥」【[リンク](#)】のマグパイもいるので、ヘルメットとサングラスは欠かせません。



バーリー・グリフィン湖の噴水とサイクリング・ロード



マグパイには要注意！



町中に広がるサイクリング・ロード

コロナ禍が終わってキャンベラにお越しの際は、ツーリングは如何でしょうか？
煌めく陽光と駆け抜ける涼風。輝く湖面と遠く霞む山並み。人生観が変わるような爽快
な開放感に包まれるのは、私だけではないでしょう。



中心部から車で8分のナショナル・アボリータム（国立樹木園）から豪州連邦議会方面を望む

山上信吾